



保護者面談が始まりました。保護者の方と進路についてじっくり話し合い、自分の進路を決めていく大切な機会です。自分自身をしっかりと見つめ直し、自分の考えを伝えてください。意見が食い違うことがあるかもしれませんが、保護者の意見にもしっかりと耳を傾け、意思の疎通を図ってください。

1週間は午前授業となりますので、3年生はじっくりと学習に取り組める時期でもあります。夏休みまでの1ヶ月を大切に活用し、受験科目の基礎をしっかりと確認し、固める時期としてください。

## ①. 【卒業生(32期生)の進路状況《その2：私立大学》と今後の動向】

● 全国的な状況・・・今春の私大入試は全国的に非常に厳しい入試となりました。その原因は、

- (1). 国の政策である「入学定員厳格化」の影響で人気私大が合格者数を大幅に絞り込んだ。
- (2). 『文高理低(就職状況が良い時は文系に人気が集まる)』の志望動向において、文系学部の募集枠が大きい私立大学に志願者が増えた。

⇒ これらの対策として多くの受験生が併願校を増やした。さらに、

- (3). 各私立大学が「ネット出願」・「併願割引」・「試験日自由選択制」・「全学部日程試験」、など、出願しやすくなる仕組みを用意した。

⇒ 首都圏の人気私大(早慶上理・GMARCH・日東駒専など)を中心に志願者数が大幅に増加した。

● 32期生の状況・・・きわめて厳しい受験状況の中で、32期生は良く健闘しました。

- (1). 32期生の4大出願総数は、2,519校(前年比119%)の過去最高となり、一般入試で大学を受験した3年生は、一人あたり約9校出願した。
- (2). 特に難関私大への出願が増えた(GMARCHは前年比133%、日大・東洋大は前年比134%)。
- (3). とは言え、第1志望に合格できた生徒は約2割にとどまる。

(卒業生アンケートでは、第1志望に合格できた生徒は19.1% 下表も参照)

- (4). 女子大学への進学が増えた(31期生:9大学41名 ⇒ 32期生:14大学52名)。面倒見の良さや就職率の高さなどを積極的にアピールしている女子大学に、女子の多い本校生徒も魅力を感じているようである。
- (5). 全国の様々な大学に挑戦した(合格大学は31期生:99大学 ⇒ 32期生:107大学)。広く全国に目を向け、関西の大学などに積極的な出願をした生徒が増えたが、その一方で、何とか合格校を確保したいために出願先を増やし、これまで本校生徒がほとんど出願しなかった大学へ出願した生徒も少なくない。

### 【32期生の進路希望調査 第1志望校(私大)の推移と進学数】

	1年4月時点	2年4月時点	3年4月の第一希望	進学者数
明治大	34名 ⇒	42名 ⇒	34名	⇒ 進学 8名
法政大	9名 ⇒	19名 ⇒	33名	⇒ 進学 10名
東洋大学	11名 ⇒	15名 ⇒	21名	⇒ 進学 16名
日本大学	15名 ⇒	22名 ⇒	20名	⇒ 進学 29名
青山学院大学	25名 ⇒	23名 ⇒	18名	⇒ 進学 1名
東京理科大学	11名 ⇒	14名 ⇒	12名	⇒ 進学 3名
早稲田大学	8名 ⇒	8名 ⇒	11名	⇒ 進学 2名
立教大学	3名 ⇒	12名 ⇒	11名	⇒ 進学 2名
中央大学	4名 ⇒	6名 ⇒	10名	⇒ 進学 2名
芝浦工業大学		2名 ⇒	10名	⇒ 進学 2名

- **3年生**が受験する2019年入試において、大学定員厳格化はさらに厳しくなり、首都圏人気私大は文系を中心にさらに難化が続くでしょう。「第1志望校になかなか手が届きにくい」状況ですから「出願校(安全校)を増やして安心したい」心理が誰にでも働くとします。しかし「浪人したくない」ためだけに志望校をランクダウンさせるなら、不本意入学となり、大学を中退するといった事態にもなりかねません。第1志望ではなくても、「この大学に入学して良かった」と「納得できる併願校選び」が非常に重要になってきます。担任の先生にお願いしてコンパスを活用するとともに、大学に足を運び、必ず自分の目で見て併願校を決めてもらいたいと思います。
- **2年生**は、浪人すると現1年生から始まる新しい大学入試制度に対応しなければならないので超現役指向になるでしょう。しかし現段階ではそのことを過度に心配するのではなく、第1志望をしっかりと見定めていくとともに、何よりも毎日の授業や家庭学習を大切にしてください。
- **1年生**は、新しい入試制度の最初の受験生となります。今後様々な情報をお伝えしていきたいと思いますが、授業だけでなく、読書や新聞などを通じて「複数の資料を読み取る力」、「自分の考えを根拠や理由とともに文章で表現する力」、英語では「話す力」も身に付けるように心がけてください。さらに、学校内外の様々な活動に主体的に参加し、その履歴を記録・蓄積する習慣をつけてください。それらを大学出願の際に利用するための「e-Portfolio」については、夏休み前に登録作業を進めたいと考えています。

